

特別支援教育支援員研修会の概要

平成26年7月28日（月）、新ひだか町公民館大集会室を会場に特別支援教育支援員研修会を開催しました。各町の支援員をはじめ、教頭、教諭、教育委員会指導主事を含め、27名に参加いただき、協議や情報交換等を行いました。

各講座の概要

説明・質疑	協議・情報交換	まとめ
 <p>講師の説明から、参加者は、特別支援教育支援員の業務や個に応じた支援の在り方について理解を深めました。</p>	 <p>3つのグループに分かれて、個に応じた指導や学級担任との連携、日頃感じている悩みや課題について協議をしました。</p>	 <p>講師のまとめから、特別支援学級だけでなく、通常の学級の子どもに対しても支援が必要であることを確認しました。</p>

支援員の困り感

- 年度当初、名簿や座席表がもらえなかったため、**子どもの名前が分からない。**
- 「学級に行ったら分かる」と言われ、**子どもの情報が何もない**まま支援をしている。
- 「この子どもについてほしい」とだけ言われるため、子どもに対して、**何をどのように支援してよいか分からない。**
- 先生は忙しいため、**打合せの時間がとれない。**
- 先生にテストやドリルの**丸付けを頼まれる。**
- **町内で情報交換等が行える研修会**を実施してほしい。

支援員の効果的な取組

- 先生は忙しく、打合せの時間が十分にとれないので、**情報共有のためのノート**を交換し、学級担任が支援してほしいこと、支援員が支援したことなどについて、共通理解を図っている。
- **町内で支援員の資質の向上を図る研修会**や、**支援員相互の情報交換を目的とした情報交流会**を実施している。

学級担任と支援員が連携を図り、効果的な支援を行いましょ！

効果的な支援を行うために

- 特別支援教育コーディネーターや学級担任との関係を明確にし、支援員を含め、全ての教職員が支援員の位置付けや役割を理解することが大切です。
- 個別の指導計画等を活用して、支援の必要な子どもの特徴や困難さを示す要因、授業や学校生活における支援の方法等について、学級担任と支援員が共通理解を図ることが大切です。
- 学級担任と支援員が情報交換ノート等を活用して情報を共有したり、短時間で打合せを行ったりするなど、特別支援教育支援員が学級担任と効果的な連携を図るための取組を工夫することが大切です。
- 支援員が情報交換等を行うことができる機会を設けることが大切です。